

はしがき

わたしたちは、独立行政法人農業環境技術研究所が発足する前から新しい農業環境研究を目指して様々な角度から研究所の構造を改革してきました。さらに、この構造がうまく機能していくために様々なシステムを構築しました。

当たり前のことですが、独立行政法人農業環境技術研究所は明確な目的のために存在する集団です。そのため、わたしたちはこの組織を単なる共同体ではなく機能体として捉えていかなければなりません。したがって、この機能体の機能をさらに向上させることが、研究所の使命の1つでなければなりません。

そのために、研究所が忘れてならない活動に、受信（社会・専門・政策）、研究（自己増殖・成長）、連携（MOU・専門・行政）、討論（セミナー・啓蒙）、貯蔵（インベントリー・発酵）、評価（組織・課題・運営・機関）、発信（専門・一般・パブリックアセスメント）、提言（リスク評価・マスタープラン）および宣伝（新聞・TV・雑誌・インターネット）があります。

ここにお届けする「農業環境研究の最前線」は、独立行政法人農業環境技術研究所が発足する1年前の平成12年度から「農環研ニュース」に掲載された「研究トピックス」と、これから「研究トピックス」に掲載される予定の成果の一部を前倒しでまとめたもので、上に掲げた活動のうち、「評価」と「発信」の部分に当たります。現在ではデータや内容が古くなり、訂正しなければならない部分もありますが、研究の流れを知ることの大切さから、その当時のままの姿で載せています。

これらの「研究トピックス」の中には、新たな「技術知」と「生態知」と「統合知」が含まれています。「技術知」とは目的と手段を定めたうえで、資源を活用し水平方向に新しい技術を開発していく知です。「生態知」とは現場で観察し、獲得してきた知です。「統合知」とは、これらの二つを融合した知です。ここにお届けする数多くの「研究トピックス」には、これらの「知」が混在していますので、この研究所のもつ「知」の多様さをお楽しみください。

江戸時代の儒学者である伊藤仁斎は、彼の著書「童子問」で次のように語っています。

大抵詞（ことば）直く 理明（あきらか）に 知り易く

記し易きものは必ず正確なり

詞難しく 理遠く 知り難く

記し難きものは必ず邪説なり

この冊子が伊藤仁斎の詞を満たしているとは努々思いませんが、できるだけ仁斎の詞に近づける努力はしました。それでも、成果の要点のみを簡潔にまとめようとしたので、細部については不明な点もあると思われます。不明な点、さらにはご意見やご質問があれば、当所の研究企画科にお問い合わせください。

平成17年3月

独立行政法人農業環境技術研究所理事長 陽 捷行